

大和公民館だより

発行者 大和公民館
〒409-1203 甲州市大和町初鹿野 1693-1
館長(有賀)■■■■ 主事(三枝)■■■■

◇ 今月の公民館事業について

新型コロナウイルスが依然として猛威をふるい、一向に収まる気配がありません。感染防止のため6月に予定していた「やまとまち歩き」及び「ヨガ体験教室」は延期いたします。

ワクチン接種が始まりその効果を期待するところですが、コロナウイルスに感染しないためにマスクの着用、3密（密閉・密集・密閉）の回避、石鹸による手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒・咳エチケット励行などを心がけましょう。

☆☆

笹子峠の西の麓の伝説・民話

日蓮さんと蛭石場（にちれんさんとひるいしば）

徳波沢の入口に蛭石場がある。弘安5年今から739年前、鶴瀬のお百姓さんが家から畑が遠いので、夫婦が弁当持参で麦播きのため畑仕事に精出していた。ところが、おかみさんは持病が起きたので家に帰した。お百姓さんは相変わらずせっせと仕事を続けていた。「そろそろ昼どきだ、湯でも沸かしてお昼としようか」と火を焚いて湯を沸かした。そこへ日蓮さんが通りがかり、挨拶をして火にあたりながらいろいろ話をした。これこれこういうわけで弁当がひとつ残っているの、よかったら召し上がれとお百姓さんが差し出した。日蓮さんは、これはかたじけないと弁当をいただいた。二人は弁当を食べながら世間話をした。お百姓さんは、この付近では村人が蛭に悩まされていると話した。これを聞いた日蓮さんは、弁当のお礼にお加持して「蛭が出ないようにして進ぜよう」とお題目を唱えた。すると今まで晴れていた空がたちまち黒雲に覆われ、稲光が走り雷鳴がとどろき身震いするほどで、お百姓さんも思わず岩陰に身を隠した。お題目の唱えが終わると元の晴天になった。日蓮さんは「蛭は石に閉じ込めたので、これからは悩まされることはない。」とお百姓さんに告げた。これが蛭石である。

また、この沢一帯の石は一夜にして赤く染まったということである。村人は日蓮さんの徳を称えて、この沢を通るたびに手を合わせ「南無徳」と唱えた。これが地名となり徳波と呼ぶようになった。

さらに、この横手をお加持横手（地籍は岡路）という。一方、鶴瀬のお百姓さんのおかみさんも日蓮さんにお加持をしていただき、お蔭で持病も治りすっかり元気になった。日蓮さんの教えを守り、ご先祖様の供養をしたのでその家は代々栄えた。いつとはなしに、村人はこの家を「加持屋」と呼ぶようになったと云うことである。